

水と私

蛇口から安心な水が出るのは
画期的なことなんです。



たかやなぎ小児科

院長 高柳 直己 さん

今回は苫小牧市日新町で小児科医院を開業されておられる高柳先生をお尋ねし、JICA（国際協力機構）の医学協力専門家としてアフリカのケニア共和国で活動された時のお話を伺いました。

高柳先生は現在の病院を開業なさる前に、国際協力活動として2年3ヶ月

にわたりケニア共和国の「ケニア中央医学研究所」にお勤めになり、首都ナイロビを中心にケニア各地でご活躍されました。

そのケニア共和国では水道は首都ナイロビ等の一部の都市にしか普及しておらず、その他の地域の飲料水は井戸または雨水の貯水に頼っているそうです。そして水道のない地域の各家庭では、井戸から家庭へ水を運ぶのは主に子供の仕事であり、それはかなりの長時間の重労働になるため、子供の生活からも余裕が失われることになっていきます。

また首都ナイロビにある水道も「安心である保証はない」状況であったため、そのままの状態では飲むことは出来ず、沸かして飲んでいたそうです。それでもケニア共和国はアフリカの中

では比較的自然条件に恵まれているため、沸かして飲んでいけば健康上の問題はなかったそうですが、自然条件に恵まれないその他の開発途上国では、飲料水に十分注意していても氷や食器に付いた水により体調を崩す例があったそうです。そしてそれらの地域では住む場所や階層で手に入る水の差が大きいとのことでした。

その様なご経験があるため、日本では蛇口をひねると安心して飲める水道水が出てくるのは当たり前のことと思われるのですが、世界的に見るとそのような環境は少数であり、今の日本の誰でも安心な水が得られることは貴重なことと感じておられるそうです。まさに日本の常識は世界の常識に非ずです。

そして苫小牧の水環境についてのお話の中で、高柳先生は苫小牧の水道水をすごく美味しと感じておられ、お腹をこわしやすいお子様にも安心して飲ませることが出来る水であること、また湯冷まし

にして飲む必要もないとのこと評価を頂きました。

今回、高柳先生のお話を伺った中で「水道事業者を信用しているから水道水をそのまま飲める」というお言葉に、水道事業者の一員として今後も信頼される水道と地域の水環境を守っていくという決意を新たにしました。

